

学校だより



# 伸びゆく子

令和5年6月30日  
横浜市立中沢小学校  
7月号

## 『宿泊体験学習が誕生日と重なった！』

副校長 正木 俊行

6月は、4年生と5年生の宿泊体験学習の引率に行かせていただきました。私には体験学習の引率をする  
と、必ず思い出してしまうある児童の言葉があります。宿泊体験の夜、その子は私に向かって、こう言った  
のでした。「先生、実は今日、俺の誕生日なんだ。」私はこの後、何と言葉をかけるのが良いのか迷ってし  
まいました。その子は続けてこう言いました。「俺、ホントついているよ。体験学習が誕生日なんて！ 今  
日は最高の誕生日になったよ！」その出来事以来、「体験学習でみんなに絶対にいい思いをしてほしい。」  
という私の思いが強くなったことは間違いないと思います。

そんな思いを抱きながらの4年生との宿泊体験学習でしたが、出発からずっと雨で、活動も全て雨バー  
ジョンでした。でも、4年生のみんなはとても生き生きと過ごしていました。雨の中、宮ヶ瀬ダムの放流の  
瞬間を待っている間は、歌を歌ったり、替え歌を作ったりして盛り上がっていました。ついに迎えた放流。  
すごい迫力でした。子ども達は思い思いに、「あれがソフトクリームだったらなー。」「ぼくはジュースが  
いいなー。」と妄想にふけていました。2日目のクラフトは、牛革に版を押して模様をつくりました。こ  
れはやり直しがきかないので、みんな真剣な表情で取り組んでいました。それでも失敗してしまった時は、  
それぞれ工夫して失敗をうまく生かして自分の作品を完成させていました。

5年生は、微妙な天気でいかに体験ができませんでしたが、屋外での学年レクや砂絵体験を行いました。  
砂絵体験は、普段の生活ではなかなか体験できない活動なので、みんな楽しんでいました。そんな中、ある  
子が「〇〇さんが、失敗したみたいで、泣いちゃっています。」と私に助けを求めてきました。きっと思い  
入れのあるデザインだったのでしょう。自分の理想とかけ離れた現状を目の当たりにして、落ち込んでいる  
ようでした。私も手伝いながら、状況の改善に取り組みました。何とか修復できましたが、しばらくすると  
またその子が私のところに来ました。そして今度は「ここも難しそうなので、手伝ってほしいです。」と自  
分から私に伝えに来たのです。失敗してどうしてよいか分からずただ泣いていた数分前の彼女とは別人の  
ようでした。こうした体験も成長につながっていくのだなと実感できた瞬間でした。農業体験でも、収穫物  
を誇らしげに私に見せてくれた子が何人もいました。

どちらの宿泊体験学習も天候には、あまり恵まれませんでしたが、そんな状況でも仲間との大切なひと時  
を精一杯有意義なものにしたいという思いが随所にみられた体験学習でした。

ただ、やっぱり晴れバージョンの活動も楽しませてあげたかったです。因みに私は雨男と呼ばれたことは  
ありません。念のため・・・。